



# 勉強会講演録②

～パネルディスカッション～

# 目次

辻耀一郎	.....	3p ~ 10p
稲見空広	.....	11p ~ 15p
石井恭平	.....	16p ~ 22p
大胡田誠	.....	23p ~ 31p
駒村康平	.....	32p ~ 39p

辻陽一郎って言います  
今日はボランティアの意義と心構えということで  
話させてもらうんですけど

簡単に自己紹介をさせていただきます  
僕は2009年の経済学部卒業で  
ライチでは、更生館に主に通っていました

仕事としては卒業してから  
ヤフーという会社に入って  
ちょっと、すぐ辞めてしまったんですけど  
その後に、NPOで国際ボランティア事業をやっている  
ナイスという団体に転職しまして  
そこで数年働いた後に  
今は、國學院大学っていう渋谷区にある  
青学の裏側にある大学なんですけど  
そこにボランティアセンターというのがあって  
そこでボランティアコーディネーター  
学生とNPOをつなぐみたいな、仕事をしています

あとは、これは自営業ぎみなんですけど  
NPO新聞っていう  
NPOとかボランティアの情報を発信するみたいな  
記事を書くようなこともしています

ですね、大学時代のボランティア経験としてなんですけど  
更生館メインに活動しながらも、親日とかでちょっと行っていたりとか  
あと、更生館じゃないんですよ  
今で言う、友愛園ですね、そこで活動していました

であとは、至誠でガーデンパーティとかバザーがあると、やっていた  
結構なのでライチどっぷりでやっていた

では、ライチの活動を経て  
学生時代にもっといろんな世界を見たいなということで  
休学して世界一周をしながら、いろんなボランティア活動をするっていうので  
アジアとかアフリカとかヨーロッパとかでボランティアをしたりもしていました

今日お話ししたいこととしては、三つ  
さっきレジュメを見たら、学生の中でボランティアは楽しいという話もあったので  
ここは簡潔に伝えたいと思うんですけど  
二つ目はボランティアと社会課題  
ボランティアを経験することで  
社会課題に直面し、それがかなり意義のあることだということと  
あと自分の経験になりますよってということですね

一つ目、まず僕の話と少し交えながら  
僕の経験と交えながら話させてもらいたいと思うんですけど  
ライチに入ったきっかけ  
多分みなさんいろいろなきっかけを持って入ったと思うんですけど  
僕は本当になんとかぐらいな感じで  
ゴルフサークルとバスケットボールサークルに入っていて  
なんとなく文科系のサークルにも入りたいなと思って  
見つけたのがライチで  
当時は部室がなくて、なんか、教室の一つを借りて部室にしてたんですけど  
そこに行って、先輩に話を聞いて  
良さそうじゃんと思って始めたのが  
きっかけだったんですけど

まあ友愛園に通ううちに  
結構楽しくなったというのがボランティアにはまるきっかけでした  
パートナーに生田さんという人がいたんですけど  
今はどうかかわからないけど、当時は、ずっと同じパートナー  
毎年交代制じゃなくて、僕だったら4年間、同じパートナーでやるっていうので  
生田さんという人がパートナーでした

で行くと喜んでくれるんですよ  
多分皆さん、これを経験していることだと思うんですけど  
それがすごい嬉しくて  
まあなんか少しでも役に立っているのかな  
みたいな思いがあって  
それが楽しさとして、ボランティアを続けていきました

で楽しいから続けていたんですけど  
ある時に、ボランティアって楽しいだけじゃなくて  
すごい社会課題と直面していることなんだなってことに気づきました。

それがですね  
僕 2004 年に入学をして  
5 年間で、一年休学して、大学を卒業したんですけど

2006 年に障害者の自立支援法っていうのが施行されました  
これは何かって言うと、障害のある方が  
サービス、例えばヘルパーさんとか介助とか  
サービスを受ける時に、無料じゃなくて、一割負担になるみたいな  
お金を払わないと、サービスを受けられないっていうような  
障害者の方々にとっては、かなりショックな法律ができて  
まあ自立をしろみたいな、法律なんですよ、つまり  
なので、ちょっとすごい  
政府からしたら上から目線のような法律で

僕はその当時友愛園に通っていた時に  
そのこのパートナーさんとか他の人達も  
この法律ができることで、すごい  
なんででしょうね  
まあショックを受けていたというか  
大変な思いをすることになるっていうような印象、話を聞いて

そんなことがあるのかと  
なんで障害のある人達が、普通に生きられないんだろうっていう

なんでそんな法律を作っちゃうんだらうっていう  
あんまり法律の中身とか、よくわかっていなかったんですけど  
こんな法っておかしいんじゃないか、っていうようなことを思うようになりました

あと同時期にですね

親日にもその当時、子供を一人パートナーを組んで、勉強会をやっていたんですけど  
その子が施設から脱走しちゃったんですよ

脱走して結局帰ってこなかったんですけど  
その子は何で脱走しちゃったのかっていうと  
まあいろんな話、食い違いがあるんですけど  
施設の人から、すごい、何かいろんなことを受けていたという  
耐えられなくなって脱走してしまったっていう話を  
他の子供達から話を聞いて

やっぱり、今年も

いろんな障害のある施設とか、  
職員さんとうまくいかなくて、虐待してしまった  
そういうニュースもよくありましたけど  
親日がそうだとは言わないんですけど

まあ、やはり

一対一で、児童養護施設であれ、障害者施設であれ  
一対一の関係ではなくて、一対多の関係なので  
やっぱりそこに、何か、関係性のロスができてしまう  
ってことがあるんだっていう

こういうような仕組み自体に問題があるんじゃないか、というようなことも  
なんとなくですけど感じました

でライチの中ですごい良かったのは

そういうのを、先輩とか後輩とかと一緒に話せたことが、良かったなと思っています  
なんかすごいおかしい

おかしいみたいな

こんな社会とか現実おかしいんじゃないか、みたいなことを  
友愛園の帰りに、うどん屋さん、民芸ってあるんだっけ？

民芸に毎週必ず行ったんですけど  
そこで先輩とかと、障害者の自立支援法について  
何かこう、激論したりとか  
そういうことをしていたのが  
すごい良かったなと思っています

なので、本当に最初ボランティアが楽しいことだったのが  
僕の中でそこで、すごい、社会の課題ということにつながって  
で将来はそういうことを踏まえて  
社会の課題の解決に何か、直接携わるような仕事がしたい  
と思ったのも、この時でした

さっき、自己紹介の最初の方で  
世界一周しながら、いろんな国でボランティアをしたっていう話をしたんですけど  
それも、こういうことがあって  
もっといろんな国には、いろんな課題がある  
いろんな問題があるってニュースで見ているけど  
自分の目で見て見たいと思うので、世界1周したっていう経緯があります

最後ですね  
ボランティア経験を通じて  
社会課題を知り、多様な社会を知るっていうこと  
これは、すごい自分の経験になるなって、今仕事をしながら思っています

今記事を書いているって話をしたんですけど  
企業の中でCSRっていう言葉があるんですけど  
ご存知の方もいらっしゃると思うんですけど  
そういったことを取材して、記事にするっていうこともしているんですが  
やはり、企業の中でも  
多様性を受け入れるとか、持続可能性な製品を作るとか  
そういった考え方が、すごい今、大事になってきています

例えば

LGBTとか、言葉を聞いたことがあると思うんですけど  
渋谷区で去年の末ぐらいから  
同性パートナーシップの証明書が得られるようになったことで  
企業でも、そういった方向が進んでいて  
今までは、企業の中では  
結婚した祝い金とか、いろんな慶弔休暇をとる時とかって  
同性のパートナーには認めてられてないことが多かったんですけど  
今かなりそれが、ソフトバンクとか、楽天とか  
あとはソニーとか、LUSH ジャパンとか  
そういったところでは  
同性パートナーにも、配偶者として認めてあげるみたいな  
社会の規定が作られています

そういう風に、そういった考え方とか、多様性を取り入れていくということが  
今の企業にすごい大事になっていて  
なのでボランティアを学生の時にして、そういった発想を得ておくっていうのは  
やはり将来、NPOなどで働かなくても、企業の中で働くことでも  
重要な発想力とか  
考え方を身につけておくことが重要なんじゃないかという風に思っています

あとはさっき大胡田さんの話にもあったんですけど  
心のバリアフリーっていうのはすごい、ボランティア経験をすることで  
身につくことなんじゃないかなと思っています

これは、僕今、國學院大学っていうのは渋谷区にあるので  
渋谷区といろいろ、話すことが多いんですけど  
渋谷区では  
すごい渋谷行ったら工事しているのがわかりますよね  
今そういうバリアフリーのハード面とかも  
そういう中で、整えてはいるんですけど

渋谷区の区長の長谷部健さんっていう人が言っているのは  
ハード面を整えるのは当たり前であって



それよりも、心のバリアフリーっていう、ソフト面っていうのを  
整えていかなきゃいけないとか  
そういうのを、これから広げていかなきゃいけない  
っていうのを言っていて

これは本当におっしゃる通りで  
やっぱり、障害のある人達を理解するっていうか  
普通にするっていうか  
LGBTの人達がいるっていうのも  
普通に感じる事とか  
そういう考えが身につくことによって  
例えば、階段があって、そこにエレベーターがなくても  
じゃあみんなで、ちょっと手助けして、車椅子を運んであげようかとか  
なんか、そういった発想が普通にできるっていう社会が  
一番みんな生きやすいんじゃないかなっていう風な  
そうところが、自分の経験にボランティアはなっていくんじゃないかと思います

最後まとめなんですけど  
学生時代なので、ライチの活動すごい楽しいし  
いろんな世界を知る経験にもなると思うんですけど  
もっといろんな世界を見てもらいたいなと思っているので  
いろんなボランティア、やってほしいと思っています

これが本当は、僕の中の裏テーマで、一番言いたいことではあったんですけど  
ボランティアセンターっていうのが、國學院にもできたんですけど  
毎年いろんな大学にできていて  
まあこれだけ、もっとあるんですけど  
早稲田、上智、明治、青学  
青学は今年の11月にできて  
立教、中央、法政とか  
ほとんど私立の大学にはあります  
慶應はないんですよ  
なので、ちょっと慶應大学、駒村先生にもさっきお伝えしたんですけど  
慶應大学にボランティアセンター、作ってほしいなという風に思っています

でそういうところを通じて  
いろんなボランティアをする学生がたくさん増えれば  
もっと、良い社会になるんじゃないかという風にとっているのが  
僕のまとめです  
あと、将来そういう NPO とかで働きたいと思っている人がいたら  
ぜひあとで話をしましょう

以上です

ありがとうございました

みなさん、こんにちは  
ライチウス会4年の、法学部政治学科に所属しております  
稲見空広と申します  
役職といたしましては  
大学2年時に総務として、役職に就きまして  
大学3年の時に、至誠学園のパート長として活動してまいりました

本日は、私の4年間のボランティア活動を通して  
感じたことや学んだことについて、お話しして  
後輩の皆さんに、メッセージという意味と  
あとOBの方々に、現役生がどういう気持ちで活動しているのか  
という部分をお伝えできればな、と思っております

まず初めに、至誠学園でのボランティアについてお話ししたいと思います  
私の担当している子供、中学2年生の男の子を担当しまして  
活動頻度としては、月に3、4回  
主に学習支援という形で、活動してまいりました

その中で、一番感じた部分は  
やはり、子供との接し方の部分ですね  
児童養護施設に通っている子供ですので  
私達の、なかなかバックグラウンドがわからない部分っていうのが  
非常に多い中で  
どういう心持ちで、彼らと接すればいいのかな  
というのが最初に、ボランティアを始める前に  
少し感じていた、不安要素ではあったんですけども  
その中で、自分なりに考えながら、子供と接するようになりました

子供の性質として、とても真面目  
で真面目さと  
ただ一方で、ちょっと飽きっぽい部分もあって  
勉強やらなきゃ、っていう意識がありつつも  
ちょっとサボりがちな部分もあって  
それで、逆に、空回りと言いますか、悪循環に陥ってしまう

そんな部分もあって  
最初は、学習支援ということで  
一緒に計画を立てたりしていたんですけれども  
学力の向上という側面ではなくて  
彼の話の聞き手になる  
そうすることで、彼の気持ちに寄り添うことができるんじゃないのかな  
というような  
そういう意識の変化がありまして

先ほど、その、大胡田さんの話にもあったんですけれども  
相手との信頼関係を築いていく上では  
まず、こちらが心を開いていかななくてはいけないんだな  
というのは、常々感じる部分がありまして

ボランティア員として行くというよりも  
できるだけ対等な立場で  
自分が中学生の時、高校生の時  
どんな思いで生活していたのかな、というような話をしながら  
少しずつ、彼との距離を詰めていくことができたかな、という風に思っています

話す、コミュニケーションの中で大切にしていた部分ですね  
その時に、不満と言いますか  
気分が日によって違う部分があるんですけれど  
その中で、無理に話そうとするのではなくて  
あくまで沈黙を共有すると言いますか  
見守ることも、一つ大切なことなんだな  
というところも学びました

最後にちょっと、やりがいに関してお話ししたいと思うんですけども  
やはり、続けてこられたのは  
子供から感謝される、これは当然嬉しいことではあるんですけども  
一方で職員の方との信頼関係というのも  
すごく、大切にしたいなと思っている部分でもありまして  
子供を支える、一人のサポーターとして

最初は、ただの外部から来た人というような、扱いだっただけですけども  
そこから、子供を支える、責任の一端を担えた  
そういう風に感じられた時には  
とても、やりがいにつながって  
4年間活動することができたかなという風に思います

続いて、親子サマーキャンプでの活動をご紹介します  
これは難病を抱える子供とその家族が参加するキャンプなんですけど  
私は大学2年次、3年次、4年次と、  
三回ほど、このキャンプに参加しまして  
実際、二泊三日なんですけど、非常に中身の濃いものでして  
ここに書かれているような、様々な企画を三日間で楽しめる  
といったようなキャンプになります

その中で感じた部分として  
やはりご家族の皆さんが、子供に対してとても愛情を注ぎ込んでいる  
というところを感じました  
実際、難病という一つのハンディキャップと向き合ってるわけなんですけども  
その子供っていうのは  
必ずしも、支えを受けなければならない、そういう存在ではなくて  
家族の中心で、いつも輝いているような  
そんな、かけがえのない存在のように見えまして  
だからこそ、限られた時間  
制限が色々ある中で  
じゃあ今、この一瞬を大切にしようという  
そういう意識が出てくるんじゃないのかな  
という風に見ていて感じました

例えば、プールに入るっていうこと、一つとっても  
難病の子供からすると、一つの大きな挑戦ではあるかと思いますが  
ただその中でも、入ろうというのが  
自分らしい生き方であるとか、  
いかに、限られた時間を充実したものにできるか  
そういう、思考の追及した結果が

サマーキャンプを充実した、より濃いものになっているんじゃないのかな  
そういう感想を持ちました

サマーキャンプっていうのが  
一つ、生きる目標となっている側面を感じまして  
実際、辛い時に  
じゃあサマーキャンプまで頑張ろう  
今年楽しかったから、来年のサマーキャンプまで頑張ろう、といった  
一年の周期の中で  
ご家族の皆様からすると  
サマーキャンプの持っている意味っていうのが  
とても大きなものがあるだな、というのは感じまして  
私はボランティアとして参加したんですけども  
毎回毎回、彼らから勇気もらって  
そういう、生きる力ですね  
彼らから常にもらうことができたかな  
という風に振り返って考えます

最後に、考え方の変化とメッセージというところなんですけど  
ライチウス会の活動を始めましたきっかけは  
私も何か社会貢献活動をしたいな、というところで  
ボランティアサークルだ  
というところで、入ったんですけども

実際、入ってみると  
ライチウス会っていうのが  
対人ボランティアである  
それは、必ず相手がいてこそ、成り立つ側面がありまして  
自分が何をしたいかっていうのも、もちろん大事なんですけど  
じゃあ相手の気持ちにどう寄り添えるかという  
人に対して何ができるのかなというのを  
いろいろ考えることができた  
そういった意味で  
非常に有意義な時間を過ごさせてもらったな、という風に思っています

ただ、社会っていうものが、人と人とのつながりで成り立っている  
そう考えた時に  
社会の根幹の部分ですね  
人と人が、どういう風に一緒に前に進んでいけるのかとか  
あるいは、気持ちの面でどれだけ寄り添うことができるか  
そういう部分を学ぶことができた  
というのは、一つ、社会の原動力になる  
人と人との協調、共生、っていう部分について  
いろいろと考えることができた  
そういう部分で、非常に  
ボランティア活動で有意義な時間を過ごさせてもらったと思います

でそういった肌感覚ですね  
現場でいろんなことを学んだ、感じた  
そういうものを、実際こういう勉強会という場で、みんなで共有して  
あるいは、社会保障や、様々な制度や  
社会に残された、偏見の目であったりとか  
そういう部分を含めて学んでいくことで  
実体験が、社会の中でどういう風な位置づけになるのかな  
というところまで、俯瞰して考えることができれば  
さらに充実した学生生活になるんじゃないかな、という風に思います

なので、是非  
こういった勉強会という形で、思いを共有するという部分と  
後は、制度的な側面も含めて、一緒に学んでいければ  
よりライチウス会の持つ意義であるとか  
学べるものも増えていくのでは、という風に思います

これが、後輩の皆さんにお話したいなと思っていたメッセージです  
以上です

みなさん、こんにちは  
理工学部四年の石井です  
今日はライチが私に教えてくれたこと、という題で  
私がライチで4年間通って、勉強できたことと  
そこから紡ぎ出される、今回のテーマであります  
ボランティアの意義と心構えというものを  
みなさんにお伝えできればいいかなって思っています

それでは、始めて行きたいと思います

まずですね、最初に軽く自己紹介するんですけど  
現役生の方で私を知らない人はいないと思うので  
OB向けになりますね

正確な所属っていうのは、理工学部の物理情報工学科の松本研究室になります  
ライチの中の所属は、先ほど辻さんと同じ、友愛園パートになってます  
少し付け加えますと  
今の伝統は民芸じゃなくで、近所のインドカレーによく行くようになりました  
それぐらいですね

趣味は映画が好きですね、特にアメコミの  
アベンジャーズとかバットマンとか有名だと思います  
あと、一番最近ハマっているのが、自転車  
最近寒いので走る気はおきないんですが  
こんなところになっています

それでは早速、内容を見ていきたいと思います

やっぱり本日こういう風に西田君から、講演頼まれた時に  
正直すごい困りました  
なんで困ったかっていうと  
話す内容が、ちょっと、なかったからなんですね  
でも何かこれって、話す内容がないんじゃないかと  
自分の中で、ライチで得られた経験だったり知識というのが  
バラバラに存在しすぎているのかなと考えました



なので、この講演を受けてお話しすることが  
私にとっても、ライチの経験と知識を整理するっていう意味で  
重要なのか、ということを考えまして  
今回受けさせてもらいました

まずですね、話すことを考えてみると  
やっぱり、入り口であります  
ライチに入った理由と  
真ん中であります  
友愛園での4年間  
ここで何が勉強になったかということですね  
そして最後に本日のテーマであります  
私が考えるボランティアの意義って何だろう  
っていうことを、三点、お話ししていけたらいいなって考えています

まず私がライチウス会に入った理由っていうのは  
とてもシンプルで三つの基準に相当するものでした

まず一つ目っていうのが、あんまりワイワイしすぎてないというですね  
もう一つっていうのが、活動頻度が週に1日程度  
やっぱりサークルだけに縛られる大学生活じゃなくて  
もちろん勉強もしたかったし  
アルバイトも高校生までしたことなかったので  
初めてやってみたいって思いました  
あともう一つが、こじんまりとした団体、仲のいい団体であるっていうこと  
今は若干規模が大きくなりつつあるんですが  
私が入った時は、もう10%20%ぐらい  
規模小さかったかなって思います

でさらにですね  
本日、見ていただければわかりますように  
OBの方とのつながりも非常に強い団体でありますので  
そのへんが、私、サークルを選ぶ上で、一つの大きなポイントとなりました

それでは、友愛園に入ってから、実際何を行ったかという  
本当にいろんなことが勉強になりました  
やっぱ4年も通えば、誰だっていっぱい経験できると思います  
でまあ、時間ないので  
本当に一つだけ、一点だけに絞って  
私お話しさせていただきたいと思います

そこで、なに一つ、お話ししようかなって考えた時に  
それはやっぱり日々の活動の感想からくる  
全体として得られたことをお話ししようかなって思いました  
この日々の活動の感想っていうのは  
一言で言うと、本当にいろんな人がいるなって、これにつきました

例えば、毎週通っているだけでも  
お話好きな人がいたりですね  
逆にもう作業は主に自分でやって、わからない時だけ聞くから  
それまでそっとしておいてくれ、という人もいたりとか  
本当に毎週毎週の勉強会を心待ちにして楽しんでもくれる人もいれば  
毎回来てくれるんだけど、何か文句が多かったり  
そんな風な人がいたりと  
本当にいろんな人がいるなという漠然な感想を持ちながら  
毎週毎週通ってました

そんなですね、漠然とした感想が  
一つの自分の中で発見になる日がありました

これも何気ない、ある日の談笑中のお話しだったんですが  
「ここにはいろんな人がいるでしょ」と  
「はい、そうですね」と  
こんな会話の中で  
「それって君たちと同じだよ」って  
こんな本当に何気ない会話でした  
でもここから、私は一つ  
自分の中で、大きな考えの転換がありました

その考えの転換って何だったかっていうと  
自分の中の考えを少し変えるべきところがあるかなって  
そういうことに気づいたんですね

何を、自分の考えを変えるべきかっていうのは  
まず私は友愛園に通っていたこともありまして  
障害者の人を見ると守られるべき存在であると  
身体障害者、知的障害者の人、両方含めてですね  
やっぱり街中で見ても、日々の勉強会の経験を生かして  
積極的にですね、支援を申し出て  
実際、助けてあげる場面も多かったです

それがやっぱり  
私がライチに通って、得られたものであると  
そういう自信もありましたし、ある種の誇りも持っていました

でも、実際これがいろんな人がいるってわかった時に  
実は危険なんじゃないかっていう風を感じたんですね

それは何が危険かっていうと  
やっぱり僕はこういう人を見て  
瞬時に頭の中で情景反射的に、何かひとくくりにして  
これは守るべき対象であると  
助けるべき対象として見てしまっていました

これ 100%間違ったことではないと思うんですけど  
僕はこれ以上踏み込んで、その人達を見てあげることができなかつたんですね  
その心は何かっていうと  
やっぱりこの中に、本当に人達がいるわけですね  
実際、目の前に人がいるのに  
自分はこのまでの認識しかしてあげられなかった  
実際、町で助けてあげたとか、支援を申し出たという時も  
何かこの漠然としたイメージを助けてあげているだけ  
という風なことになってしまっていたんですね

それが自分の中で少し間違っていたかなと思ひまして  
これからは、やっぱり、みんな同じ人間であって  
くくられて漠然としたイメージになる前に  
それぞれの人が目の前にいるわけですね  
こういう目の前の人達ときちんと向き合って  
コミュニケーションをとっていくってのが  
人と向き合って、対人ボランティアとしての  
ライチウス会の活動で生かせることではないかと  
学べることではないか、ということを感じました

これが友愛園の4年間で、私が学んだこととなります

また、友愛園に通っているとですね  
職員さんとの交流もよくあるんですね  
実際に職員さんと毎週顔を合わせて  
ファイルとか、書類のやり取りをしたりするので  
そんな中ですね、やっぱり  
「大学生なのに君たち偉いね」とよく言われるんです、毎週毎週  
でもそれって自分の中で  
まあ、お礼はもちろんするんですが  
自分の中でまた、何か捉え所のないような疑問が  
漠然と生れてくる時もありました

それって何かって、自分の中で分析してみたところですね  
自分ってそんなに偉いのかなって考えたんですね  
だって、何で毎週来て  
まあ、もちろん大学生なんて遊ぶこといっぱいあると思うんですけど  
毎週来てボランティアしてるかっていうと  
なにも私は高貴なボランティア精神で来てたわけではなくて  
本当に純粋に楽しかったし、純粋に好きだったから毎週来てたんですね

これが自分の中で、改めてわかった時に  
本日の講演でお話しできるような、そういうボランティアの意義っていうのが  
自分の中で一つ見つかりました

次で最後なんですけど  
最後にボランティアの意義と心構えを話す前に  
一回まとめておきたいと思います

ここまでのお話をまとめていきますと  
入会した動機っていうのは、本当に辻さんとよく似ているんですが  
なんとなく入ってきちゃったと  
自分の中で  
活動頻度と、騒ぎ過ぎてないってことと、サークル自体がでかすぎてないって  
この三つだけで選んでました

友愛園で得られたことっていうのは  
障害者の方であったり  
もちろん、児童養護施設の子供達を見る目もそうだと思うんですけど  
やっぱり、守るべき存在であると  
それを情景反射的にくくってしまう前に  
というか、くくってしまった後に  
それぞれの、その個人の人達と、しっかり向き合っていけるかなって  
それが大事だなって思います

そして私が、入った動機もそうなのが、続けてきた動機も  
本当に楽しくて好きだから4年間通い続けました  
途中で辞めてっちゃう人とかもいたんですけど  
私はこんな、ろくでもない理由かもしれないけど  
これで4年間続けてこられました

そこで、私が今日、後輩のみんなに伝えたい  
ボランティアの意義っていうのは  
誰のためにやっているのかなって  
もちろんですね、世のため人のためであると思います  
教科書的な答えではあるんです

私、でもすごい重要だなって、みんなに強く伝えたいなって思うのが  
やっぱり自分のためでもあるでしょって

自分のためにやろうよと  
もっと楽しんでいこうって思いました

批判が少し怖いので、自分のためでもってつけたんですが  
辻さんのスライドにも、先ほど少し出ていたように  
もっと楽しもうよって言葉があったと思うんですね  
それが私の中の強い主張でもあって  
高貴なボランティア精神で  
もちろん全員がボランティアするべきだと思うんですね

思うんですけど、やっぱり  
社会のため、世のためと思ってずっと続けていくと  
いつか背負い込みすぎて、自分がポロポロになったり  
精神的に追い込まれたりしてしまうこともあると思うので  
私が強く伝えたいのは  
もちろん最低限の責任感っていうのは、当たり前のこととして  
やっぱりもっと、自分から楽しんでやっていこうよ  
楽しむってことを大事にしてほしいなって思います

これが私が考えるボランティアの意義  
意義っていうか、まあ心構え、向き合い方になります

これを最後提案して、私の発表を終わりにしたいと思います  
ご清聴ありがとうございました

改めまして大胡田でございます

今日のパネルディスカッションのテーマとは、ちょっとずれてしまっ  
て本当に申し訳ないんですけども  
障害関係の分野をやっている弁護士としては  
どうしても伝えておきたい法律がありますので  
今日はちょっと障害者差別解消法の話からさせていただいて  
最後はですね、ボランティアとか人と関わる上での心持ちみたいなもので  
話を占めたいなと思っています

ところで、まずはですね  
日本には障害者って何人ぐらいいるかって  
みなさんは考えたことありますか？  
まあ多分ないですよ、普通はね

障害者白書っていう政府が発表している白書があるんですけども  
これによりますと、  
日本には身体障害者  
つまり目が見えないとか、耳が聞こえないとか、足が不自由であるとか  
そういった身体障害者は 393.7 万人いるそうです  
そして、知的障害を持った仲間、知的障害者は 74.1 万人  
精神障害を持った仲間、精神障害者は 320.1 万人いるそうなんです

単純にこれらを合計すると 787.9 万人ということになります  
およそ 800 万人ですね

でこれはどれくらいの数字なのかっていってですね  
ちょっと比較のために  
日本で人口の多い名字っていうのを調べてみました  
ちゃんと、こういう統計があるんですよ

日本で一番多い名字って、みなさん何だと思います？  
「佐藤」っていう声が出ましたね、ええ正解です

一番多いのは佐藤さんらしいですね  
佐藤さんは日本に約 200 万人いるそうです  
で二番目はですね、鈴木なんですね  
鈴木もまあおよそ 200 万人  
三番目はちょっと意外でしたけれども、高橋だそうです  
高橋さんっていうのは、日本に約 150 万人いると  
四番目は順当に田中さん  
田中さんも約 150 万人です

つまり日本には佐藤さんと鈴木さんが 200 万人ずつ  
高橋さんと田中さんが 150 万人ずついるわけですね  
これらを合計すると約 700 万人ということになる

さっき日本の障害者は 800 万人っていう風に申しあげました  
ということは、日本の障害者っていうのは、本当はですね  
日本中の佐藤、鈴木、高橋、田中を全部合わせたよりも多い数字なんですね

これは結構意外じゃないですか  
街中を見回してみても  
例えば、お店や交通機関、学校や病院など見てもね  
そんなにたくさん障害者っていないんですよ

これはなぜか  
やはり日本の社会の中には  
障害者が社会で活躍することを阻んでいる様々なバリアーがあるから  
それは建物や交通機関の物理的なバリアーという場合もありますし  
または、障害者に対する、健常者の側の心のバリアーということもあるでしょう  
こういった様々なバリアーによって、  
社会の中でね、活躍することができていないのではないだろうか  
私はそんな風に思っています

で次にですね  
ちょっと障害っていうものはなんなのか  
障害って何なのかって、改めて考えてみたいと思います



従来は障害っていうのは、目が見えないとか、耳が聞こえないとかね  
そのような、心や体の機能の欠陥だ  
こういった機能の欠陥が障害なのだ、と考えられてきました  
まあこれは分かりやすい考え方ですね  
これを俗に障害の医学モデルなんて風に言います

障害の医学モデルからいたしますと  
障害っていうのは、その人、個人の問題なわけですから  
訓練とかね、リハビリによって乗り越えていきましょう  
ということになるんですね

ですが 20 世紀の終わりから 21 世紀にかけて  
障害というものに対する考え方が、ガラリと変わりました

障害っていうのは、その人の心や体の機能の欠陥なのではない  
多様な人が生活しているのにもかかわらず  
そういった多様な人を想定しないで作られてしまった社会の不備  
こういった社会の不備が障害なのだ  
と言われるようになってきました  
これは障害の社会モデルと言います

で障害っていうのはこういった  
多様な人を想定しないで作られてしまった社会の不備なわけですから  
この社会の不備を直すことによって、障害をなくしていこう  
という考え方に結びつきます

このような、障害の社会モデルを前提として  
近年、様々な障害者関係の法規範が変わってきました  
中でもね、やはり代表的なのが、障害者差別解消法という法律なんですね  
この法律はまさに、今年の 4 月 1 日から施行されました

大体、法律っていうのは第 1 条あたりにですね  
目的規定が置かれていて  
障害者差別解消法も、やはり第一条が目的になっています

でこの法律の目的というのはこんな感じなんですね  
障害を理由とする差別の解消を推進することによって  
全ての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく  
相互に人格と個性を尊重し合う共生社会を実現する  
これが目的とされています

全ての国民が障害の有無によって分け隔てられることなく  
相互に人格と個性を尊重し合う  
本当にね、こんな社会が実現したら素晴らしいなと思わせてくれる  
なかなかの名文だと思います

そしてこの障害者差別解消法の第1条を読みますと  
私は金子みすゞさんっていう詩人の有名な詩を思い出します  
鈴と、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい  
っていう詩がありますが  
まさに障害者差別解消法が目指しているのは  
みんな違ってみんないいという社会  
むしろ一歩進んで  
みんな違うからこそいい、という社会なんだろうと私は思うんですね

じゃあ、そんなみんな違ってみんないいという社会を  
どうやって実現していくのか  
この障害者差別解消法の中では二本柱  
二つの柱が定められています

一本目の柱は  
障害を理由とする不当な差別的取扱いの禁止  
不当な差別的取扱いっていうのを禁止した、これが一本目の柱です  
そして二本目の柱は  
障害者に対して合理的な配慮を提供する、これを義務づけた  
合理的な配慮の提供義務、これが二本目の柱です

それぞれの柱、ちょっとだけ解説をしたいと思います

まずは一本目の柱であります  
不当な差別的取扱いの禁止ですね  
この対象となっているのは、行政機関や民間事業社  
民間事業社というのは民間企業とか NPO とか町内会とかね  
ありとあらゆる団体を含みます  
こういった行政機関や民間事業社は  
障害者を、障害を理由に不当に差別して取り扱ってははいけません  
とされたんですね

ですがまあ  
ここに言う不当な差別的取扱いってというのは  
なんか言葉が抽象的でよく分からない

そこで政府はガイドラインを作っています  
このガイドラインによりますと  
ここに言う、不当な差別的取扱いの禁止というのは  
正当な理由なく障害を理由に、財産やサービス、各種機会の提供を拒否する  
時間帯や場所などを制限する、障害者にだけ特別な条件をつける  
などによって障害者の権利利益などを侵害することなのだ  
とされています

財産やサービス各種機会の提供を拒否する  
つまり障害者の入店を断るとかね  
障害者には商品を売りませんよ  
なんていうことはダメですよ、というのが一つ

もう一つは、時間帯や場所を制限する  
つまり障害者を、他のお客さんがいない時間に来てくださいなんて  
時間帯を制限する、これもダメですよ

また、障害者にだけ特別な条件をつける  
例えば、障害者は必ず介助者と一緒に来てくれなきゃ困りますよとか  
そんな風に特別な条件をつける  
こんなこともダメですよ

こういったことは、不当な差別的取扱いになりますよ  
というのが、この一本目の柱、不当な差別的取扱いの禁止

で二本目の柱

障害者に対して合理的な配慮の提供を義務付けたということです  
これもやはり対象となるのは行政機関と民間事業社  
行政機関や民間事業社は障害者が求めた場合には  
過重な負担とならない限り、必要かつ合理的な配慮を提供する  
これが義務付けられたわけですね

合理的な配慮と言えばですね

障害者が、障害のない人と平等に社会に参加するために必要な手助けとか  
設備の改良とか、ルールの変更、補助手段の提供  
まあそんなことを言うわけなんですけれども

例えばこういう事ですね

大学の入試試験を点字だとか、音声の出るパソコンで受験する事を認めるとか  
あとは、金融機関の窓口で  
視覚障害者に対して、書類の代筆や代読のサービスを提供するとか  
店の入り口の段差をスロープにするとか  
会議に手話通訳や要約筆記者を設置する  
まあこのような  
障害者がね、障害のない人と平等に社会に参加するために必要な配慮をすること  
これが社会の義務なんだとされました

先ほど、障害の社会モデルという話をしました

社会には様々な不備があって、それが障害なのだ  
だから社会の側がそれを取り除かなければいけない  
この社会モデルが一番具体的に表れているのが  
この合理的な配慮ですよ

障害者になんでわざわざそんな配慮をしてらんないじゃないんだよ  
と思うかもしれないけど  
それは障害の社会モデルだからです

社会の側に不備がある  
不備があるんだから、それを解消するのが社会の義務でしょ  
というわけですね

まあこのような、障害者差別解消法ができたことによって  
日本の障害者が、障害のない人と平等にね  
社会に参加して社会で活躍できるような  
そんな社会ができれば本当に素晴らしいな、という風に思っています

長くなっちゃっているんですけども、一つだけ  
最近読んだ本にですね  
リチャード・フロリダっていう  
まあアメリカの、カナダですかね  
社会学者の本がありました

でこの人はですね  
いろんなアメリカの都市を研究した方なんですね  
都市社会学者です

で彼が言うにはですね  
いろんな都市を研究してみると  
発展している、すごくクリエイティブになっている都市っていうのは  
三つのTがあるっていうことを書いていました

三つのTというのはね  
テクノロジー、技術力  
タレント、人材ということですね  
もう一つは、トレランス  
トレランスっていうのは、彼は、多様性に対する寛容さ  
だという風に言っています

このような  
テクノロジー、タレント、トレランスが揃うとね  
その町は活性化して、とても発展するんだということですね

障害者を受け入れるっていうのはですね  
一面において費用がかかるかもしれないし  
めんどくさいことかもしれない  
だけど、対極的な視点で見ると  
こういう社会の寛容さを身につけることによって  
社会全体の活力をもう一回蘇らせることなのじゃないかな  
私はそんな風に思っています

で最後にですね  
ちょっと心のお話をしたいと思います  
そろそろクリスマスだから  
クリスマスっていうのはなんか  
誰かのことを大切に思うには、いいシーズンですよ  
なんとなくこう、人のことを大切に思いたくなる

心ってみなさん一体どこにあるかって考えたことありますか？  
心臓ですかね、頭ですかね？  
以前ですね、私、ある精神科のお医者さんと話をしている時に  
そんな話になったんですね  
心って一体どこにあるんでしょうか、という話になった

彼が言うには  
心というのはね  
もともと体のどこかにあるのではなくて  
貴方が誰かのことを思ったり考えたりした時に  
貴方と誰かの間に生ずる感覚、生ずる作用なんだ  
そう教えてくれました

これはとても含蓄が深い言葉だなと思います  
我々は自分と立場の違う存在  
例えば障害者とか、外国人とか  
そういった立場の違う存在と会った時に  
どうやって話しかけようか、どうやってコミュニケーションをとろうか  
って悩むことがありますね

そんな時にはこの言葉がひとつのヒントになります  
まずは相手のことを思い、相手のことを考えてみる  
そうすると、みなさんと相手の間にひとつの心が生まれて  
心がいろんなことを感じるようになると思います

また自分のことを振り返ってみると  
自分は相手を思ったことによって  
新しい心の一つ手に入れられたんですね

人間と人間の関係ってこんなところがあって  
たくさんの人を思い、考えれば  
思ったり考えたりするほどね  
自分の心もどんどん豊かになっていくんだ  
そんなところがあるように思っています

みなさんもたくさんの人を思い、  
たくさんの人を思い、  
豊かな人生を歩んでいただきたい  
でそのためにボランティアっていうのは本当に  
有効だしね、意味のあることだと私は思っています

ご清聴ありがとうございます

こんにちは

今年から会長を引き受けております、駒村でございます  
ちょっと立場が、教員というか、会長という立場なんですけれども  
他の皆さん、パネリストとちょっと違うので  
ちょっと違う立場から、少しお話しをと思っております

あのサークルはですね

大学の授業と違ってですね

基本は学生主体ということで

会長の役割って一体なんなのか

一番最小限は、何か問題が起きた時に責任をとるのが会長の仕事かなと  
思ってるんですけど

伝統のある、何十年もの伝統のあるサークルですので

これを私が会長の時に途絶えさせては

絶対いけないわけでありまして

この素晴らしいサークルがですね、今後続くべきだろうと私は思っています

ライチの出身ではないんですけれども

実は大胡田さんともですね

この会で会う前からですね、実は存じ上げていました

先ほど紹介された、竹下弁護士に

十年くらい前、竹下さんの勉強会に呼ばれてですね

そこでお会いして

その後、大胡田さんとはですね

確か5、6年前だったんじゃないかと思うんですけども

まさにですね

雇用における合理的配慮に関する政府の検討会で

一緒にさせていただいて

その後、おそらく

さっき辻さんが触れたですね

自立支援法の法改正の審議会がずっとあってですね

そこでも、大胡田さんと少しご一緒させていただいた記憶があります



人の出会いというのは不思議なものでして  
まさか今日一緒に  
OB のですね、会に来ていただけるとは  
想像つかなかったですし

あるいはですね  
今日いらしてないかもしれませんが  
去年の6月ぐらいにですね  
ある都庁の方がですね  
社会的養護の新しい都の新議会の副会長やってください  
ということで私のところを訪れてですね  
私も関心がある、人に関心をすぐ持ちちゃうんですね  
「こういう仕事はどう思いますか」と聞いたらですね  
「学生時代から、ずっとやっていたんですよ」と  
「ちょっと待ってください、なんて言うサークルですか」と言うと  
ライチなんですね

だからもう本当にですね  
なんかこう導かれるように、ここの会長になったという感じがして  
人の出会いというのは不思議だなと思いました

引き受けたばかりでして  
最初の一年目はですね、皆さんの様子を見ながら  
しかしですね  
ちゃんと、このサークル活動が活性化するようなことに  
気を配らなければいけないだろうと

去年ですね  
去年の卒業生とOBから  
みんなで勉強する場があった方がいいんじゃないか  
という話があったんですね  
そこでですね、今日、皆さんにですね  
一つ、ボランティアということ 키워ドにですね  
お話ししてもらおうと

でまさに私の期待通りの  
現役の稲見さん、石井さんからですね  
それ自体の価値  
それから、それ自体が楽しいということ  
それから感じたこと  
ということについてですね、お話しをいただき  
さらに辻さんからはですね  
そこから今関わっている社会の抱えている問題に気づいていった  
というお話もされたと思います

私としてはですね  
そういうことを自分の言葉で  
皆さん学び合って、説明する中でですね  
人を助けるということは、どういうことなのか  
ということですね  
少し、学んでいくというか、整理してもらいたいなと思っていました

そうしたところですね、今日の大胡田さんのですね  
お話っていうのは、まさにですね  
人を助けるということは、どういうことなのか  
というお話をまとめていただいたと

支援学という言葉があるかどうか  
ちょっとわかりませんが  
人との間にですね、関わっていくときにはですね  
当然、信頼関係が必要であると  
それから、相手のことを思うことであると  
これは想像力の問題  
それから、先ほど、石井さんがおっしゃったように  
対等な立場である  
というこの三つくらいはね、重要なことであるという風に思います

これはですね  
このボランティアだけではなくて

あらゆる局面で皆さんの、人生に重要になっていくのではないかと思います  
これはボランティアだけではないです

先ほど、こういうことを感じられたのが  
大胡田さんが弁護士という仕事で  
やっぱりこれは大事なんだと感じられたと  
私もですね、大学の教員という立場ですね  
この三つはとても大事なことです

どんな仕事をやるにしても  
相手が人間である以上ですね  
この三点はとても大事  
おそらく、これは医者にとっても大事ですし  
公務員になる人にとってもですね  
あらゆる分野においてもですね  
相手とどう関わっていく  
人を助ける、人と助け合いの関係を作るとはどういうことなのか、というのは  
とても重要なことであって  
それを今日、エッセンスを教えていただいたのかなと思います

今日のこういうですね、会合ですね  
皆さんにですね、ライチウス会にですね  
今後期待したいということですね  
一二年生はいろんな施設で活動していただいと  
若干、三四年生の活動量がだんだん落ちてくる  
という傾向があつてですね  
ややサークルとしての一体感がないと

私としてお願いしたいのはですね  
辻さんもさっきおっしゃったようなですね  
感じたことを発信していく  
というようなことも大事ではないかと思います

今日の会合はですね、残念ながらですね  
メンバー限りになっています  
大胡田さんのこんな良い話をですね  
メンバー限りになんて、とてももったいないと思いました

例えば三田祭とか  
三田祭じゃなくてもですね  
こういう会合をですね  
他の人も参加できるような形で、持って行ったら良いんじゃないか  
あるいはですね  
さっき辻さんからお話があったようなですね  
慶應にはボランティアセンターがない  
ということであればですね  
やっぱり、ボランティアセンターの必要性を  
慶應義塾の方にですね、訴えていくような取り組み  
これは私も、もちろん、関わっていきたいと思います

実は慶應にボランティアセンターがないことによってですね  
最近私も困ったことがありまして  
これは仕事上の悩みだったんですけども

今、オリンピック・パラリンピックでですね  
心のバリアフリーに向けて、政府は本格的な対応をしているという状態です  
本当はそれに関係してですね  
いろいろと大胡田さんにも相談したいことがあってですね  
昨日も、その取りまとめ  
実は、内閣官房の会長をやっておりまして  
昨日も、その取りまとめの文章が夜中にやってきてですね  
こういう意見が出ているけど、どうやって先生取りまとめましょうか  
何時間もその結果を見ながらですね  
うーんって悩んでいたところなんですけれども

大学生の皆さんにですね、心のバリアフリーに取り組んでもらいたいと  
各大学で、そういう取り組みができないかと

慶應はどうでしょうかと、言われた時にですね  
僕が会長で、実は中野さんという経済学部の  
メンバーに入っているにも関わらず  
慶應はその対応力がないと  
その準備ができていないという  
とても恥ずかしい状態だったわけです

したがってですね  
あとオリンピックまで近いですけど  
慶應にも是非とも持ちたいなど  
これは、いろんな方が  
私ももちろん、声をあげなきゃいけないと思っていますが  
いろんな方が、働きかけていくということも必要でありですね  
ライチの皆さんが感じた  
学生からも、そういう意見が出ているということも  
発信してもらいたいなと思います

今日はですね  
全然違う話をですね、実はパワーポイント用意しました  
先ほど大胡田さんに説明していただいた  
合理的配慮の話とか、差別解消法の話  
これ学生にですね、西田君にですね  
君達は様々な課題を耳にするようだけれども  
そもそも、その障害を抱えている方々をめぐる制度、現状  
あるいは、社会的養護の子供達が抱えている現状、制度、政策  
こういったものを知ってるんだよね、と言ったら  
学んだことがありません、という話でですね

ここに出ているのは  
障害を持った方の所得保障、労働政策、福祉政策、社会的基盤という話で

ただこれをですね  
完全に僕の社会保障の授業のパワーポイントを  
これを使うと授業になっちゃうので

さっきのお話いただいた話とほとんど重なっていますので  
障害を持っている方  
これちょっとコピーが小さくて申し訳ないんですが  
これももうネットに出ていますので  
障害を持っている方の状況とかですね  
あるいは、差別解消法の概要とか  
合理的配慮というのは、どういうことなのかとか

あるいは、その障害を持った方の所得保障政策として  
障害年金が、こういう構造になっていますとか  
障害を持った方の就労の形としては  
一般就労と福祉的就労とあって  
それぞれ課題がありますとか  
あるいは、障害を持った方の  
一定の人数を取らなければいけない  
雇用率制度があり  
それを守らない場合は納付金というペナルティとか

あるいはですね、障害者自立支援法というですね  
さっき辻さんがお話ししていた  
介護保険の統一をするような目的ですね  
話が進んで、一割負担ということになったんですけど  
それについてはですね、やはり見直すということで  
障害者総合支援法という形で  
名前と、少し制度を変えてですね  
現在、この制度が  
今年、法律改正が行われたばかりですけども  
少し新しい動きになっているとかいう話とかですね

あるいは、障害を持った方に対する予算  
社会保障給付ってというのは、現在 110 兆円使っていますけれど  
そのうち、障害の、そういうサービスに対しては  
国費でわずか 1 兆 2000 億円しか使われていませんよと  
これは先進国の中でも、非常に低い方ですよとか

まあこういうようなことをですね  
皆さんも、こういう分野に関わっている以上  
知っという欲しいなど

ただ、これだと時間がないので  
こういう話はまた4月以降ですね  
また新しい人が入った時にですね  
新入生が入った時に、一回、授業にならない程度で  
試験に出ないので、気楽に聞いてくださいと  
こんな感じですよ、というぐらいのことは  
共有してきたいなと思います

ちょっと今日はこれぐらいにしておきましょう

ということでですね  
今日これから、パネルディスカッションに移るわけですが  
私の期待した通りの話が皆さんから聞けてですね  
今の2年生、今度3年生に上がる西田君の代からですね  
三田の活動  
いろいろなアイデアを考えてもらいたいなと思います  
どうもありがとうございます